

平家ゆかりの地

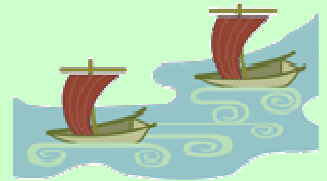
川崎観音

川崎観音由来

平安時代のおわりごろ、寿永の昔（今から約800年前）のことである。栄華を誇っていた平氏も時の流れには逆らえず、安徳幼帝を奉じて都を落ち、最後の決戦の場壇ノ浦へと西下していく途中のこと、黒髪島付近で大暴風雨に出会った。勇猛を知られた悪七兵衛景清と云う武将がいた。景清は信心深く、いつも肌身はなさず十一面護身観音を持っていた。風雨なかなかおさまらず、「風雨を静めて西海に下り再起を計りたまえ」と観音さまに念ずれば、当夜観音菩薩が夢枕に立たれ、「我を向かいの山にある寺に安置せよ。さすれば風雨静まらん。」とのお告げがあった。

夢からさめた景清が、驚いて自分の守り本尊をその寺に安置したところ、風雨は静まり、西に下った。この観音が霊峰山万福寺の一宇で當国十八番景清護身観音で川崎観音として崇められている。

この他に、慈母親音がと子安観音があり、川崎観音といえば、景清守り本尊（観音）を思い出すが、実はこの三観音か一つの信仰を形づくっている。



「乳絵馬」

お参りの人の中には乳房を型取って
安産・子育て祈願をして奉納する。

参拝者の声

2人目を妊娠中ですが、5カ月のとき、実母のすすめでお参りを。持参した腹帯に印を押してもらい、お礼を頂いて、祈禱を受けました。お守り(500円)と、持ち帰り用の小豆入りごはん(100円)もゲット。出産後、お礼参りに行くママも多いそうです。

年中行事

- ・毎月17日
縁日・受付（8時～16時）
祈願・満願心経・お接待
- ・8月9日
夜観音・七観音
（19時～翌10日 10時）
9日夕方19時より 参道への燈火

